

管理部・ヘッダ部の運用整理表

Table with columns: 通番, 資料(情報)名, 運用種別情報, 情報名称, 送信処理用, 具体電文内容, 備考. It lists various meteorological and disaster-related reports and their metadata.

EditorialOffice/PublishingOffice
気象庁本庁、及び東海気象台が発表する情報に関して、本XML電文ではEditorialOfficeを常に「気象庁本庁」とする。PublishingOfficeについては、表中の括弧書きに従う。
観測担当官署については、ControlTitleが「生物季節観測」以外のものは、各管区気象台、沖縄気象台、各地方気象台、測候所(航空官署を除く)となる。「生物季節観測」は、このうちの一部の官署となる。
「府県予報担当官署」については、気象庁予報観測規程における府県予報区を担当する気象官署を示し、「分担官署」については、同分担気象官署を示す。
「気象庁予報担当官署」については、気象庁予報観測規程における地方予報区を担当する気象官署を示す。
「気象庁・河川事務所共同発表」「気象庁・自治体共同発表」については、それぞれの業務において共同発表する各気象官署名と各機関名の併記となる。
「火山担当官署」については、EditorialOfficeは、「気象庁本庁」「札幌管区気象台」「仙台管区気象台」「仙台管区気象台」となり、PublishingOfficeは「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」となる。
「海上予報担当官署」については、EditorialOfficeは、「気象庁本庁」「札幌管区気象台」「仙台管区気象台」「仙台管区気象台」となり、PublishingOfficeは、「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」「気象庁(津波予報を除く)」となる。
「地方予報担当官署」については、気象庁本庁、札幌・仙台・大坂・福岡管区気象台、沖縄気象台となる。
「府県海気象官署」については、稚内・網走・釧路地方気象台となる。
「スモッグ担当官署」については、気象庁本庁、札幌・仙台・大坂・福岡管区気象台、沖縄気象台、室蘭・福島・銚子・横浜・新潟・名古屋・津・京都・神戸・岡山・広島・高松・松山・下関・大分・鹿児島地方気象台となる。
ReportDate/TargetDate/ValidDate
記載は、その時刻が業務的に持つ意味と、時刻の示す業務上の単位(精度)を示す。「-」表記は当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1 数分の誤差がある
※2 5分単位に丸める
※3 予報(発表)日時と同じ
EventID
現象、予報、警報等の独立した情報単位として、他の情報と組み合わせる場合におけるような場合を含むものを示す。「-」表記は独立した情報単位を示す際に当該要素を利用しないことを示す。※印の意味は以下の通り。
※1 14桁数字表記する。なお、同一地震であっても、緊急地震速報、震度速報(以上)、自動処理による発表と、津波警報・注意報・予報・津波情報・地震情報(以上、手動による発表)の間でEventIDが異なる。
※2 運用指針2.1.3.1の記載にかかわらず、地震・津波に関連する情報においては、Control/Title、Control/Status、及び地震識別番号の組み合わせが一致する一連の情報「独立した情報単位」として扱う。地震・津波に関連する情報においては、同一の地震であっても編纂官署が切り替わる場合がある。また、津波に関連する情報では、複数の地震識別番号を持つ場合がある。
※3 TC番号は、海上警報以上(WARNING)最大風速が28/14以上34/17未満の吹向警報に年間通じて発生する番号。台風は34/17以上。
※4 y1/y2/m1/m2/d1/d2/h1/h2/m1/m2の形式で、第1の数字は「第1の発表日時(JST)」を示し、第2の数字は「第2の発表日時(JST)」を示す。当該情報(予報)の発表日時(JST) (yyyy-mm-dd hh:mm:ss)
※5 「発表対象地域」は、当該土砂災害警報情報の発表単位で、北海道と沖縄県の各名称となる。北海道は「宗谷地方」「上川地方」「室蘭地方」「網走・稚子地方」「石狩・空知地方」「渡島・樺太地方」に、沖縄県は「沖縄本島地方」「宮古島地方」「八重山地方」に分割して発表するため、この名称となる。
※6 Body/MeteorologicalInfoのtypeが「特殊気象(風)」、「特殊気象(気圧)」の場合、「発表日時分+観測項目+現象+観測した気象官署の固有地点番号」とする。
※7 発表する情報(14桁数字)を割り振る。識別番号そのものが物理的な意味(地震発生時刻等)を持つものではない。
※8 原則、発表する情報(14桁数字)を割り振る。ただし、続報を発生する際は、同一の識別番号を用いる。識別番号そのものが物理的な意味(地震発生時刻等)を持つものではない。
Serial
※「空タガ」：台風に関して必要時に発表する全般台風情報(総合情報、上陸等情報)、全般台風情報(位置)では、通常1から付与する。これら台風の「位置情報」「総合情報」「上陸等情報」について一連の情報としており、一連の通報は原則これらの情報の発表順に付与する。
「n(1~)」：台風に関して必要時に発表する全般台風情報(総合情報、上陸等情報)、全般台風情報(位置)では、通常1から付与する。これら台風の「位置情報」「総合情報」「上陸等情報」について一連の情報としており、一連の通報は原則これらの情報の発表順に付与する。
「x(1~)~y(1~)」：台風に関して必要時に発表する全般台風情報(総合情報、上陸等情報)では、通常1から付与する。これら台風の「位置情報」「総合情報」「上陸等情報」について一連の情報としており、一連の通報は原則これらの情報の発表順に付与する。
Code値の出現する要素
Head部における各種コード値を格納できる要素(Code要素)において、コード値が出現する際の観測要素名を資料(情報)個別に表記する。